

文化力を高め、生かすために（指針別冊）（案）

～職員の方へ～

社会経済環境は大きく変化してきています。

県民の皆さんをはじめ地域の多様な主体は、時代の変化を踏まえ、さまざまな取組にチャレンジしています。県庁も、前例にこだわったり、効率性等にとらわれ過ぎることなく、県民の視点に立って素直に、柔軟に考え、発想を転換することが求められています。

社会のひずみを解消し、成熟社会を実りあるものにするためには、これまでの県の政策を見直し、経済と文化のバランスの取れた政策に転換する必要があります。

このため、文化力指針（仮称）本冊では、「文化力」を政策のベースに置き、これまでの経済的な合理性や効率性などを基準に物事を判断するだけでなく、発想を転換し、文化的視点も加えて、多面的に価値をとらえ、政策を考えることが重要としています。

この指針別冊は、職員が、文化力を高め、生かす視点で政策を考え、発想を転換するヒントをとりまとめたもので、いわば、職員向けの政策ツールといえるものです。

政策ツールは、政策の質を高めるための道具であり、手段です。

どんないいツールであっても、それを使う人の感性、問題意識が大切です。政策を立案し、実施する上で、常に、「誰のために、何のために、何をめざしているのか」を問い続けることが求められます。

およそ、完璧な政策ツールなどあり得ません。今回の指針をベースとして、さらに進化させ、文化力をより高め、生かして、「みえけん愛」を育む社会の実現を目指していきます。

1 文化力を高め、生かす取組はもう始まっています

すでに、各地域では、三重らしさを生かしながら、文化力を高め、生かして、こころ、地域、産業を元気にする取組が進んでいます。皆さんの周りにもたくさん取組があると思いますが、ここでは、いくつかの事例をあげてみます。このような取組事例から学んで、発想を転換するヒントにすることが大切です。

(1) 「こころを元気に」するために

① 文化芸術活動

芸術家や建築家など創造的で専門的な仕事に携わる方々の協力を得て、文化芸術をまちづくりや教育、福祉などさまざまな分野に積極的に活用していこうとする試みが始まっています。こうした第一線で活躍している専門家が直接指導することで子どもたちの創造力や感性を育むことができ、また、絵画や音楽、ダンスなどの芸術は、集中力の涵養やストレス解消にも機能するともいわれ、文化芸術を積極的にこころの元気づくりを生かそうという動きもあります。

文化芸術は、経済的に豊かになって余暇活動として楽しむものとか、高尚なものでもっぱら鑑賞するだけ、一部の人だけのものと思いませんか。

文化芸術は、必ずしも、高尚で才能のある人だけが生み出す非日常のものではなく、日常生活を豊かにし、人のこころを元気にするものです。

② ふるさとの語り部

「ふるさと三重の語り部」や「熊野古道語り部友の会」、「宮川流域案内人」など、地元の皆さんが無料もしくは低料金で、地域の自然や歴史文化について案内するボランティアガイドの輪が広がっています。観光資源にならないと思われているところも、地域の自然や歴史を語るガイドの案内により、観光地としての魅力を発揮することができます。

ガイドの活動は、人と人との出会いとふれあいの中で、地域の魅力を再発見するなど案内する人の充実感を高めたり、案内される人も単に見るだけの旅では味わえない満足感を得られるなど、案内する人、される人双方のこころの元気づくりにつながっています。

③ ふれあいボランティア

地域住民の皆さんが中心になって、人と人とのふれあいを基本に、「困ったときはお互いさま」の気持ちで、子育てを応援する、高齢者の外出を支援する、話し相手になるなど、暮らしを支えるさまざまな活動が行われています。このような人と人との絆が生活を支え、暮らしやすい地域づくりにつながっています。

サービスの提供を媒介するものが、お金ではなく、思いやりやふれあいが基本になることにより、サービスを受ける側だけではなく、サービスを提供する側のこころの元気づくりにつながっています。

(2) 「地域を元気に」するために

① 地域学

地域の皆さんが自分たちの地域の自然や歴史文化などを学ぶ活動として、地域学が盛んに行われています。市町が中心になって取り組んでいる「三重ふるさと学」、資格検定試験もある「伊賀学」、大学との共同研究も活発な「みえ熊野学」など、地域学は住民の皆さんの郷土愛を育み、地域づくりへの参加の動機づけとなるなど、地域の元気づくりにつながっています。

特に意識することもなく、日々の暮らしを送り、特段何もないと思っている地域でも、その地域に特有の自然や歴史、伝統があり、それを学ぶことにより地域の魅力を再発見、再認識することにつながります。

② 丸山千枚田の保全・活用（熊野市紀和町）

機械化や用水管理が難しい山間地の棚田である丸山千枚田では、過疎化・高齢化の進行や稲作転換対策に伴い、耕作放棄が続出していましたが、地元の皆さんや行政が協働して復田に取り組むとともに、千枚田のオーナー制度や「丸山千枚田を守る会」の設立等保全活用を進めた結果、「日本の棚田 100 選」に選定され、来訪者も増加するなど、地域の元気づくりにつながっています。

棚田は経済面だけから見ると効率性の低い農地ですが、視点を変えると貴重な地域資源になります。

③ 三重地物一番

地産地消運動が広がるなかで、県民の皆さんが県産食材に触れ、その背景にある自然、文化、農林漁業の営みなどを意識する機会を増やすため、毎月第3日曜日とその前日の土曜日に「みえ地物一番の日」が展開されています。

地産地消の取組によって、消費者は、おいしくて安全・安心の地域食材を味わうだ

けでなく、地域の文化を味わっているともいえます。また、生産者にとっては、消費者との「つながり」が深まることなどによる経済効果に加えて、やりがいや生きがい生まれるなど地域の元気づくりにつながっています。

(3) 「産業を元気に」するために

① 地域資源のブランド化

意欲的な事業者が、地域資源を活用し新たにブランド化に挑戦する気運が醸成されるなか、漁業者と観光業者が連携した「あおりふぐ」、「あだこ産岩がき」などのブランド化への取組が進み、地域資源を活用した高付加価値化による産業の元気づくりにつながっています。

商品の競争力の源泉を価格だけに求めるのではなく、視点を変えて、新しい知恵や独自の知恵を生かして、顧客に新しい魅力や高い価値を提供することにより、競争力を高めようとするものです。

② フィルムコミッション

映画やテレビドラマ等の撮影の誘致を目的に、ロケ地情報の提供や関係機関との連絡調整等の支援を行うフィルムコミッションの取組が注目されています。県内でも平成14年に地元自治体と観光業者が中心となって伊勢志摩フィルムコミッションが設立されました。

撮影隊による直接的経済効果をはじめ、映画やテレビの撮影地になることによる知名度の向上に伴う観光客の増加や、映画制作に関わることを通じての地域文化の創造など、長期的、多面的な効果に着目した産業の元気づくりといえます。

③ みえメディカルバレー構想

みえメディカルバレーは、伊賀地域における薬事産業の集積など、三重の持つ地域資源を有効に活用し、産学官民の有機的なネットワーク（産業クラスター）を核に、成長が期待される医療・健康・福祉産業の創出と集積を目指す取組です。県内の天然資源を活用したバイオ産業の創出をはじめ多くの研究会が活発に活動しています。このようなネットワークにより知的創造性が高まり、共同研究や新製品の開発など多くの成果が生まれ、産業の元気づくりにつながっています。

医療・健康・福祉分野という、行政は、独自の行政サービスや許認可という視点でとらえがちですが、見方を変えれば、医療・健康・福祉産業を振興することは、新たなサービスや製品の供給を通して、県民の医療、健康、福祉に資することになります。

2 文化力を高め、生かす舞台づくりを進めるために

1の取組例などから、文化力を高め、生かすためには、多様な文化ストックを発掘、活用、循環して地域の価値や魅力を高めるとともに、さまざまに交流、連携する中で新たな文化や価値の創造につなげることで、そして文化や価値の多様性と調和を確保することが大切な視点であることが分かります。

では、文化力を高め、生かす舞台づくりを進めるために、あなたは、どのようなスタンスで日々の業務に取り組めば良いのでしょうか。

あなたは、日々の仕事を通して、県民の方に一定の価値を提供しています。しかし、見方を変えると、仕事を通して、意図していない違う価値を生んだり、別の価値を低下させ

たりもしています。これまで知らず知らずのうちに一定の価値、基準に基づいて仕事を進めてきたと思いますが、それ以外にも大事にしなくてはならない価値があります。もう一度、仕事を通してどんな価値を提供しているのか多面的に考え、多様な価値のバランスを考えながら仕事を進めるという視点で考えてみて下さい。

しかし、そうするための画一的なマニュアルや基準はありませんので、あなたが、日頃から柔軟に考え、感性を磨くことを実践しなければなりません。常に、「誰のために、何のために、何を目指しているのか」を考えるとともに、県庁内外の関係者の方々と一緒に考えることが大切です。

さらに、文化は、県民の自発的な活動の中で創造され、また、地域の特性や独自性のもとで育まれます。従って、画一的、集権的に政策を考えたり、実施するのでなく、市・町や多様な主体と、一層、連携協力して仕事を進める必要があります。

3 発想を転換する9つのヒント

指針本冊では、「ストックの活用・循環」、「交流・連携」、「多様性と調和」をキーワードとしていますが、これは、三つの「わ」としてとらえることができます。

- 三つの「わ」
- ① ストックの活用・循環（「環」＝サイクル・循環）
 - ② 交流・連携（「輪」＝ネットワーク・つながり）
 - ③ 多様性と調和（「和」＝バランス・調和）

三つの力と三つの「わ」に着目して、発想を転換し政策を見直すためのヒントをまとめると次のようになります。

皆さんが担当する各分野の施策や事業を点検し、経済と文化のバランスの取れた政策へと見直していくために、この「発想を転換する9つのヒント」を大いに活用し、そして、各分野にふさわしい内容に進化させて下さい。

発想を転換する9つのヒント

	ストックの活用・循環 （「環」）	交流・連携 （「輪」）	多様性と調和 （「和」）
1 人間力を 高め、 生かす	①積極的に人材を発掘し、活用するように考えていますか。	②人と人の出会い、ネットワークを広げるように考えていますか。	③人それぞれの個性を尊重し、その能力を引き出すように考えていますか。
2 地域力を 高め、 生かす	①埋もれた地域資源を発掘し、積極的に活用するように考えていますか。	②地域の強みを伸ばし、お互いにないものを補い合うため、地域間の交流・連携を広げるように考えていますか。	③地域それぞれの特色を尊重し、その独自性を引き出すように考えていますか。
3 創造力を 高め、 生かす	①多彩な知恵を発掘し、積極的に活用するように考えていますか。	②異文化、異分野、異業種間など知恵の交流・連携を広げるように考えていますか。	③文化や価値観の違いを尊重し、多様な知恵が共存できるように考えていますか。

ヒント1-①（「人間力」×「ストックの活用・循環」）
積極的に人材を発掘し、活用するように考えていますか。

このヒントの持つ意味

* 亀の甲より年の功

●人間力は、文化が人に働きかけて人の有する潜在力を顕在化させる力と、顕在化した人間の力の双方の力であり、人が人間らしく心豊かに生きるための力です。

○個人の持っている多様な能力や、そのネットワークは社会の大切な資産ですが、それを十分に発揮したり、活用する機会が妨げられたり、与えられない人がいます。そのような人の社会参画や能力発揮を進めることが、社会を元気にすることにつながります。

○核家族の増加により、親から子へ、孫へと引き継がれてきた生活の知恵の継承が困難になってきています。世代間の交流の機会を作ることは、知恵を次世代に引き継ぐだけでなく、人々の新たな能力を引き出したり、感性を育むことにつながります。

例えば、次のような発想が政策を見直すヒントになりませんか？

○障害があることはマイナスですか？

障害者のことを「チャレンジド」という呼び方が広がっています。これは、挑戦という課題、あるいはチャンスを与えられた人を意味し、障害をマイナスとのみ捉えるのではなく、障害を持つゆえに体験する様々な事象を自分自身のため、あるいは社会のためポジティブに生かして行こうという発想です。

○高齢者に蓄積された知識が生かされていますか？

高齢者を社会にとっては支援の対象と考えがちですが、高齢者は人生経験の豊富な人々です。豊富な経験を生かした個性や能力を発揮できることが社会を活性化します。

ヒント1-②（「人間力」×「交流・連携」）

人と人の出会い、ネットワークを広げるように考えていますか。

このヒントの持つ意味

* 三本の矢

○人の能力は、出会い、話し合い、そして、ともに経験することにより、高められます。人と人との出会いの機会が充実していることが大切です。

○文化の担い手は個人ですが、多様な人が集まって連携、交流することが、個人に活力を与え、文化を活性化します。人と人の絆が徐々に失われつつあることから、絆や信頼感・連帯感を深めるネットワークづくりが不可欠になっています。

例えば、次のような発想が政策を見直すヒントになりませんか？

○学校は児童生徒だけのもの、老人ホームはお年寄りだけのものと利用者や目的を特定していませんか？

人は誰でも、それぞれ能力を持っており、お互いが持っている能力を尊重し合い、刺激し合うことが、能力を発揮する可能性を伸ばすことになります。

施設の利用者や使用目的を特定して考えるだけでなく、例えば、学校と老人ホームの交流が、お互いの持つ様々な機能を生かして、児童と老人の知恵の循環につながるように、生活の場、教育の場としての本来の目的にも配慮しながら、世代を越えた、地域の人と人の出会いの場にすることが大切です。

○当事者や専門家だけで問題を解決しようとしていませんか？

子どもの教育や防犯、人権などの地域の課題に対して、行政や関係団体など限られた関係者だけで問題解決を図ることは一見効率的なようですが、根本的な解決につながらないこともあります。問題意識を共有する人のネットワークを広げ、絆や信頼感・連帯感を深めていくことが、遠回りのようにみえますが、確実な問題解決につながります。

ヒント1-③（「人間力」×「多様性と調和」）

人それぞれの個性を尊重し、その能力を引き出すように考えていますか。

このヒントの持つ意味

*十人十色

○競争原理や効率優先の考え方が強まっている現代社会では、ともすれば一定の尺度で人を評価しがちです。人それぞれに得手不得手があるように、すべてにおいて万能な人はいませんが、人の能力はさまざまな可能性を秘めています。人が持つさまざまな能力を引き出すには、個性を尊重した人づくりが必要です。

○さまざまな経験を積み、さまざまな文化に触れることにより、人の持つ能力は引き出されます。そのような機会を増やし、人生を豊潤なものにするためにも、仕事ばかりに時間を割くのではなく、仕事と家庭・地域生活のバランスの取れた暮らしが重要です。

例えば、次のような発想が政策を見直すヒントになりませんか？

○個人個人の持つ多様性を軽視していませんか？

画一的な能力開発は、一見効率的ですが、それぞれの個性を考慮していないので、人間力を発揮する機会を奪っているとも考えられます。失敗しても、別な進路やまたその進路に再チャレンジできる、その人にあった複数の選択肢を学習できる機会が必要です。

○子ども達の知識を高めることだけが教育と考えていませんか？

人は知識を高めるだけでなく、日々さまざまな経験を積むことにより、その能力を伸ばしていきます。

子ども達を未熟だから保護するものと考えずに、様々な場所や機会での挑戦を見守り、サポートすることが大切です。

ヒント2-①（「地域力」×「ストックの活用・循環」）

埋もれた地域資源を発掘し、積極的に活用するように考えていますか。

このヒントの持つ意味

*玉みがかざれば光なし

●地域力は、文化が地域に働きかけて地域の有する潜在力を顕在化させる力と、顕在化した地域の力の双方の力であり、地域の魅力や価値を高めるとともに、地域社会の絆・アイデンティティを育む力です。

○地域の「空間」というのは、先人達が暮らしをよくしていこうと努力してきた積み重ねであり、その結果、今の「空間」があります。重要なことは、私たちが現在の「空間」に履歴を刻んでいるといった認識を持ち“地域の空間”をより進化させ次世代に引き継ぐことです。

○地域に眠っている文化ストックや地域資源を発掘、活用することにより、地域の価値や魅力が高められ、「地域」に対する愛着、誇りが高まります。地域に蓄積された文化ストックを活用、循環しながら、次世代へと引き継ぐことが大切です。

例えば、次のような発想が政策を見直すヒントになりませんか？

○古民家は不便なだけだと考えていませんか？

古民家は暗くて不便なものにとらえられがちですが、生活の積み重ねを感じさせる文化資源でもあります。

例：紀南ツアーデザインセンターは明治時代の木本の伝統的な建築様式をほぼ建築当時のままとどめており、貴重な文化資源であると同時に、地域活性化のための拠点として活用されています。

○秘湯の宿、ランプの宿、ローカル線は不便なだけだと考えていませんか？

経済的な効率性や移動時間を考慮すると、新幹線や高速道路に近い便利なところが良いと考えがちですが、見方を変えれば、不便なこと、何もないことが観光客の心をつかむなど文化的発想を加えることにより貴重な資源になることがあります。

例：青荷温泉（青森県）は、いまでこそ津軽の霊泉として、またランプの宿として、日本中に名を馳せていますが、五十年前、丹羽洋岳が入山開発するまでは全く未踏の地でした。

ヒント2-②（「地域力」×「交流・連携」）

地域の強みを伸ばし、お互いがないものを補い合うため、地域間の交流・連携を広げるように考えていますか。

このヒントの持つ意味

*井の中の蛙

○文化は地域に根ざしてできたものですが、同時にグローバルな時代においては、地球規模の出来事が、地域に大きな影響を与えることもあります。私達の地域にも、近隣の地域にも、遠い地域にも文化があります。それぞれの良さにさらに磨きをかけながら、ないものを補い合い、交流連携を広げていく視点が大切です。

○人権の尊重や環境の保全等がグローバルな問題となっています。それぞれの地域での実践の積み重ねである文化のネットワークを図ることにより、地球全体の問題を解決する力になると考えます。

例えば、次のような発想が政策を見直すヒントになりませんか？

○都市と農村の交流を進めていますか？

農山村や漁村は、隠れた地域資源の宝庫です。

都市部に住んでいるだけでなく、農山村や漁村へ留学することにより、その地域での生活、風景、地域コミュニティに触れ、利便性や快適性の追求の中で失われがちな自然との共生を実感することができ、また、交流を通じて地域の伝統文化の復活につながっています。

例：いなべ市藤原町古田地区では、都市住民との交流を中心とした村づくりに取り組んだ結果、里山の保全、炭焼きの復活、ビオトープづくりなど自然景観の保全や伝統文化の復活につながっています。

○山から海まで一連のものとして考えていますか？

豊かな漁場をつくっているのは豊かな森から流れてきている栄養豊かな水であり、また、美味しい水を使用することにより、美味しいお米やお酒ができます。一方で、大雨のシーズンになると、陸（河川）から流れてきたゴミや流木等で海岸が埋まってしまうといった問題もあります。流域を全体としてとらえ、地域が一体となって考え、取り組むことが山、川、海を守るためには必要です。

ヒント2-③（「地域力」×「多様性と調和」）

地域それぞれの特色を尊重し、その独自性を引き出すように考えていますか。

このヒントの持つ意味

*急がば回れ

○文化は地域の風土や歴史と深く関わるもので、一朝一夕にできるものではなく、長い時間をかけて地域に蓄積してきたものです。このことが文化の多様性につながり、地域の価値や魅力の源泉となるとともに、新たな文化を育む土壌ともなっています。

○このような文化は、一旦無くなると回復が不可能であったり、無くなるときと比べて回復するために何倍もの労力や資金が必要となります。また、地形や気候、植生といった自然環境に大きな影響を受けることから、文化の多様性を維持する上からも、環境との共生を進めることが重要です。

例えば、次のような発想が政策を見直すヒントになりませんか？

○公共工事を行う場合にも、地域の景観や特性を生かす視点が大切ではないですか？

河川改修や区画整理などは、川の安全を確保したり、土地の高度利用を進めるために行うものですが、地域の文化や特性を変えていく面があります。事業の計画や実施にあたっては、地域の景観や特性を生かして、地域にマッチした整備を進めることが大切です。

○画一的な政策のなかで画一的なまちづくりを進めていませんか？

全国画一的な都市政策のなかで都市計画を進めた結果、どの都市に行っても同じような団地、スーパー、ファーストフード店が並び、長い年月培ったその地域の空間や風景の破壊を招いています。その地域の風景や空間に合ったまちづくりを進めることが必要です。

ヒント3-①（「創造力」×「ストックの活用・循環」）

多彩な知恵を発掘し、積極的に活用するように考えていますか。

このヒントの持つ意味

*温故知新

●創造力は、文化が人や地域の創造性に働きかけて生まれる力で、芸術文化から生活様式、産業活動にいたるまで、新しい知恵や仕組みを生み出し、変えていく力です。

○多様な文化や知恵は、長い時間をかけて培われてきたものであり、世代を超えて守り、磨き、継承していくという発想が大切です。時代やライフスタイルの変化により、輝きを失い、衰退していったものもたくさんありますが、時代は常に動きつづけているものであり、多面的な視点から埋もれた文化や知恵を見直す必要があります。

○知恵は、研究者や技術者、芸術家など一部の人が生み出すものではなく、生活の知恵、匠の知恵、自然の知恵など、知恵は誰にでも、どこにでもあるものです。知恵を積極的に活用していくためには、知的財産としての権利化を進めるとともに、知的創造の成果を尊重する社会づくりが大切です。

例えば、次のような発想が政策を見直すヒントになりませんか？

○伝統工芸の技は知恵の宝庫ではありませんか？

伝統工芸は、職人が磨き抜いた貴重な技ですが、ライフスタイルの変化等により、製品はなかなか売れません。多様な知恵や技で製品の魅力を高めたり、新たな活用を考えることも大切です。

例：「伊勢形紙」は本来、着物の柄や紋様の染色に用いる型紙ですが、型紙自体が美術工芸品として評価されています。

○打ち水は時代遅れの知恵ですか？

打ち水は、朝夕の涼しい時間に、日向よりも日陰や風通しの良い場所に行うとより効果が長続きするそうです。打ち水ひとつにもさまざまな知恵が隠されています。環境にやさしいライフスタイルへの転換が求められている今日、先人の知恵に学ぶところがたくさんあるのではないのでしょうか。

ヒント3-②（「創造力」×「交流・連携」）

異文化、異分野、異業種間など知恵の交流・連携を広げるように考えていますか。

このヒントの持つ意味

* 三人寄れば文殊の知恵

○新しい文化や知恵は、多様な価値観が出会い、刺激し合い、交流する中から生まれます。

○自分とは違う考え方の中にも新しい創造につながるヒントが隠されています。異質なものを排除することなく、さまざまな文化や分野、業種の知恵が交流する場づくり、機会づくりが大切です。多彩な知恵の交流が、新しい文化や知恵を生み出す土壌となります。

例えば、次のような発想が政策を見直すヒントになりませんか？

○分野や器具の使い方を固定的に考えていませんか？

お年寄りが昔のアイロンなど生活道具を教材にその体験を語り合うことで、介護予防や認知症の改善を図ろうとする回想法が注目されています。分野の異なる民俗資料館と福祉センターが協力すると、古いアイロンにも新しい活用方法が生まれます。

○農業は将来性のない産業ですか？

農業は、自然の力を引き出す知恵と技の結晶です。生産物として出荷するだけでなく、優れた加工技術との融合や観光への活用などを分野を越えた連携で、さまざまな可能性が広がります。

例：伊賀の里モクモク手づくりファームでは、地域の自然と農村文化の保全、おいしさと安全の両立にこだわったものづくりなどが消費者の共感呼び、総合産業としての農業の新たな可能性を開拓しています。

ヒント3-③（「創造力」×「多様性と調和」）

文化や価値観の違いを尊重し、多様な知恵が共存できるように考えていますか。

このヒントの持つ意味

*資源は有限、知恵は無限

○「想像」から「創造」へと言われますが、多様な文化や知恵が出会い、衝突し、受容、融合していく過程の中で創造性は発揮されます。多様な価値観の共存が新しい文化や知恵を生み出す土壌となります。

○グローバル化の進展やライフスタイルが多様化する中で、異質なものを排除することなく多様性を尊重する、多文化が共生する社会づくりが重要です。

例えば、次のような発想が政策を見直すヒントになりませんか？

○在住外国人との交流を進めるのは誰のためですか？

多文化共生を進めることは、外国人が住みやすい社会となるだけでなく、異なる文化との接触で、自分たちの文化への理解が深まる、人に対する多様な見方やグローバルな視野が身に付くなど、多くのメリットがあります。

○産業活動の中心は大企業だと思いませんか？

ニーズや時代の変化に柔軟に対応できる多彩な中小企業が、日本の産業活動を支えてきました。最新の工作機械でも真似できない多種多様な職人の技が、数々の新しい製品を生み出しています。

例：中小企業が集積した東大阪市では、職人の技を結集し、先端技術のシンボルともいえる人工衛星「まいど1号」まで打ち上げようとしています。